都立葛飾商業高等学校　令和５年度　年間授業計画

教科	商業	科目	総合実践	学年	３	単位	３
教科書(出版社)	総合実践必携（自校作成テキスト）						
副教材等(出版社)	営業日誌（自校作成テキスト）						

１．学習の目標

(1)　商業に関する総合的な実践の学習として小売業に関する仕入取引や販売取引をコンピュータを利用して行う。

(2)　実践的な学習 課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

(3)　商品売買業を想定して仕入・販売計画の立案、取引、会計処理を行う経営、取引、決算などに関する実践的な能力を育てる。

(4)　取引相手と電話によって、条件などを考え、交渉するコミュニケーション力を養う。

２．学習内容

学期	単元	授業内容	時数
1・2	(1)　学習するにあたって ①　授業中の注意事項 ②　実践内容及び使用する教材・教具について (2)　初期設定 ①　開業準備 ②　帳簿設定 ③　帳簿・証憑の処理 ④　会計処理ソフトの使用法 ⑤　取り扱い商品について (3)　取引演習 ①　指定取引 ②　月末業務 ③　自由取引	以下の内容について、実技演習を中心に授業を展開していく。 ○　ビジネスパーソンとしての心構え、ビジネスマナーの習得（この項は課題学習でも取り扱う） ○　チェックライター等事務用器具の使用技術の習得 ○　証憑・伝票等の起票・整理の処理技術の習得 ○　帳簿類の記帳技術の習得 ○　パソコン（会計処理ソフト・総合実践演習ソフト）を使用した会計処理、商品管理技術の習得 ○　（模擬）取引から仕訳、起票等の会計処理技術の習得 ○　電話、メールを活用した、ビジネスコミュニケーション能力の育成（この項は課題学習でも取り扱う） ○　名刺交換や広告作成等のビジネス場面を活用したコミュニケーション能力、情報の受発信能力の育成（この項は課題学習でも取り扱う） ○　仕入計画、販売計画の立案・実践を通した商品管理・マーケティング・財務管理・マネジメント等の能力の育成	81
3	(4)　決算 ①　決算整理仕訳 ②　損益勘定の会計処理 ③　財務諸表の作成 ④　経営報告	以下の内容について、実技演習を中心に授業を展開していく。 ○　取引の結果について決算整理を行う。 ○　損益勘定を明らかにするとともに財政状態を確認するための財務諸表の作成を行う。 ○　自社の財務諸表分析や業務分析を行い、自社の経営成果・概況について報告書を作成させるとともに、発表、相互評価をさせる。	12

３．評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A（良い）	B（概ね達成）	C（不十分）
【関心・意欲・態度】 授業準備や仕事に取り組む姿勢	授業観察 マナーチェック	・始業までに、用具を準備し、前回の日誌や必携で今日の作業を確認している。 ・取引演習に主体的に取り組み、同社の社員を支援しながら業務を遂行している。 ・出席状況が良好である。	・始業までに用具を準備している。 ・取引演習に主体的に取り組み、同社の社員と協働して業務を遂行している。 ・出席状況が良好である。	・指示されれば、用具を準備することができる。 ・取引演習に取り組んでいるが、周囲の支援が必要である。 ・出席状況が不良である。
【思考・判断】 仕事の客観的分析力 具体的作業の完成度	授業観察 営業日誌 帳簿 作成書類	・指示された内容を理解し、計画的に効率性を考えながら進めることができる。 ・会計処理が早く正確に行われ、帳簿の訂正が少ない。 ・改善点や新たな目標を設定できるか	・指示された内容を理解し、計画的に進めることができる。 ・会計処理が正確に行われている。 ・反省点を振り返り、次回に生かそうとしている。	・何度か確認しながらであれば、指示内容を進めることができる。 ・周囲の力を借りながら訂正すれば、会計処理を行うことができる。
【表現・技能】 仕事内容をまとめる力 協調性・責任感	営業日誌 帳簿 作成書類	・帳簿類が整理され、仕事がしやすいよう工夫して保管されている。 ・「実践くん」を使用して伝票入力や書類を作成し、相手のミスや仲間のミスを的確に修正することができる。 ・電話応対をはじめとしたビジネスコミュニケーションのスキルが適切であり、取引回数が多い。	・帳簿類が整理され、適切に保管されている。 ・「実践くん」を使用して伝票入力や書類を作成することができる。 ・電話応対をはじめとしたビジネスコミュニケーションのスキルが適切である。	・帳簿類を整理しようと努力している。 ・同じ会社の社員に操作を教わりながら「実践くん」を使用して、伝票入力や書類を作成することができる。 ・電話応対をはじめとしたビジネスコミュニケーションを意識しながら応対しようとしている。
【知識・理解】	定期考査 帳簿 作成書類	・書類や帳簿の作成上の決まりを理解し、正確に作成し、「実践くん」を適切に活用することができる。 ・ビジネスマナーに関する用語を理解し、授業の中で応用することができる。	・書類や帳簿の作成上の決まりを理解し、正確に作成することができる。 ・ビジネスマナーに関する用語を理解している	・書類や帳簿を作成することができる。 ・ビジネスマナーに関する用語を理解しようとしている

都立葛飾商業高等学校　令和５年度　年間授業計画

教科	商業	科目	経済活動と法	学年	３	単位	２
教科書（出版社）	経済活動と法（実教出版）						
副教材等（出版社）	経済活動と法問題集（実教出版）　商業法規便覧（東京法令出版）						

１．学習の目標

ケーススタディーなどを使って事例分析をする中で法的な思考を確認する中から、自ら考え答えを出す姿勢を身につける。

２．学習内容

学期	単元	授業内容	時数
1	第１章 １．変化発展する経済社会と法 第２章 １．権利・義務とその主体 ２．物と財産権 ３．知的財産権 第３章 １．財産権と契約 ２．物の売買 ３．物の貸借	・適切な経済活動や秩序ある円満な社会生活を営むための法の意義を理解させる。（家庭学習：教科書p5～21 に該当する部分の問題集） ・憲法が最高法規として体系的に存在していることを理解させる。 ・法が企業の経済活動に大きな影響を与えていることについて事例を用いて理解させる。 ・権利・義務の意義や種類について理解させる。 ・自然人と法人について具体的な事例を用いて理解させる。 ・経済的な利益を内容とする物権・債権・知的財産権の意義ついて理解させる。	24
2	４．契約によらない財産権の変動 ５．財産権の保護 第４章 １．企業活動の主体 ２．営業活動の自由と制限 ３．株式会社と法 第５章 １．手形・小切手と法 ２．金融取引	・私企業の意義や種類に触れる。 ・企業活動の主体である商人および商行為について理解させる。 ・商人の行う取引形態である売買、取次、媒介、代理について理解させる。 ・会社における法令遵守とは何か。 ・消費者保護に関する法律を理解させる。	30
3	第６章 １．法令遵守 ２．消費者と法 ３．労働と法 ４．紛争の予防と解決	・民法上の雇用契約、労働基本権と労働三法に関する法律的知識を習得させる。 ・国内における紛争の予防と解決に関する予防的司法制度としての仲裁の目的、手続き、効力について具体的な事例を用いて理解させる。 ・法律上の違反や契約内容の不備が原因で生じる紛争の解決を図り、私権の確保とその実現を目的として民事訴訟制度があることを理解させる。 ・２月２日全商商業経済検定　「経済活動と法」（希望者）	8

３．評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A（良い）	B（概ね達成）	C（不十分）
【関心・意欲・態度】 ・経済生活やわれわれの市民生活が安定的に営まれることは、法の存在による「法化社会」であるからである。従って、法の知識、法的思考が生活上必須のことであることに感心を持ち、意欲的に学習しようとするか。	・授業準備が出来ているか。 ・授業の開始・終了の挨拶が出来ているか ・授業に集中しているか	・授業開始前に授業の準備ができている。また、教科書を開き予習をしている姿を毎回みられる。 ・常に目と耳をかけ向けて集中している姿見られ、 ・挨拶が出来ている	・授業開始前に授業の準備ができている。 ・挨拶も良好である。 ・授業は集中しているが、時々、集中を欠ける姿も見られる。	・授業が始まってから教科書等の準備が始めることがしばしある。授業中の集中力を失う場面をたびたび見受けられる
【思考・判断】 ある事象の解釈について、また条文についてなどの生成過程や立法の趣旨を論理的に思考し、どう判断しとらえることができているか。	・発問等に対し理解し正確に答えを出しているか。 ・法規を根拠に自分の考えを述べられるか	発問に対して自らの考えや意見等の答えを出すことができる。また、積極的に質問をする。	発問に対し自らの考えや意見等を出そうとする努力する努力が伺える。	・発問に対し自らの考えや意見等を出そうとする努力が不足している。
【表現・技能】 新聞記事などを通してそれらのことが「法化社会」でどのように扱われ、条文と相関できるか具体的にとらえることができるか	・新聞記事の内容が理解でき、法律との関係を結び付けることができるか	・新聞記事や教科書の読む力は十分に備わっている。さらに、要約ができ、自らの考えや意見と論理的に記述できる。	・新聞記事や教科書の読む力は十分に備わっている。しかし、記述となると論理的になっていない。	・・新聞記事や教科書の読む力は不十分である。漢字などが読めないなど基本的な力は不十分である
【知識・理解】 経済活動や市民生活のあるところ法あり、と実感し理解することが知識の裏付けをもってなしうるか。	・我が国は法治国家であることを常に意識し日常生活を営む上で法が存在することを意識しているか	・定期考査等の知識を問う問題は高得点を常に出している。 ・小テストも高得点を出している。予習・復習ができている。	・・定期考査等の知識を問う問題は平均点以上を出している。 ・小テストは高得点を出している。	・定期考査等は平均点以下が多く、予習・復習が不十分である。

※具体的な評価方法等

〇「関心・意欲・態度」として、授業の取り組みの姿勢を重視する。具体的にはノート提出等を含めた提出物の提出期限を守る。そして、ノートの取り方等を総合的に判断する。

〇「知識・理解」として定期考査を中心に小テストなど従来のペーパーテストの素点で判断する。

〇「表現・技能」は授業中の発言を重視し、質問を理解し、正確に答えられるかを見る。